

## 第 11 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議・議事概要

日時：令和 2 年 8 月 27 日（木）19 時～22 時

場所：沖縄県医師会館 3 階ホール

### 議題1 県内の感染状況報告

- 1 渡航者との接点が密なところで流行が確認された場所が松山だった。ここで働いている人たちから子供、親族に感染が広がり、病院、高齢者施設に広がった。
- 2 沖縄のウイルスの遺伝子分析では、東京由来のものに含まれていたが、この結果を持って、全部が東京由来と断言するのは難しい。
- 3 観光業の従事者の感染、観光業からの感染はほとんどないのではないかと。どのような対策を取れば良いか。
- 4 ホテルは感染対策を取りやすいと思う。観光では、タクシー運転手の感染が多いが、こちらも対策は取れると思う。難しいのはレストラン、飲食店。夜の街になるとさらに難しい。そこをどう指導するか。観光客にどのように制限を指導していけるのかが今後の課題。
- 5 観光客にどのような行動を取ってもらうかもポイント。空港等水際の場所での啓発が必要。
- 6 大都市と違い、家に2世代、3世代で住んでいるので、高齢者への感染のスピードが県外より早かったのではないかと。

### 議題2 検査体制の拡充に向けて

- 1 これから無症状者の検査を戻すとすれば、無症状者の検査を検査協力医療機関等でみることが確保されていないと厳しい。重症患者を診つつ、無症状の PCR を回すというのは、指定医療機関として酷な状況になっている。受け皿は必ず整備して頂きたい。これは至急の問題ではないか。
- 2 検査体制のどこで目詰まりが起こっているかが見えてこないといけない。
- 3 有症状者なのに検査対象ではない、と言われた人がいると聞いている。きちんと対応できるようにしてほしい。
- 4 検査体制は戻すべきだが、指定医療機関に流れることがないようにしてほしい。
- 5 65 歳未満の濃厚接触者は検査を行う。無症状者については、医師の判断で検査を行うこととする、ではどうか。
- 6 県民の言う「濃厚接触者」は、「私は接触した」という人である。この部分の検査をどうするかが重要。
- 7 無症状者の検査については、検査体制が整うまでは難しいのではないかと。
- 8 「無症状者（濃厚接触者を除く）」については指定医療機関等に回さないということができれば、対応は可能ではないかと。

### 議題3 市中感染ゼロを目指すことについて

○今後の対策の目標と施策の考え方(市中感染ゼロを目指す場合と持続流行を容認する場合)について説明。

### 議題4 沖縄県小児 COVID-19 の現状

- 1 きっかけとしては、職員が持ち込むパターンの方が多いのではないか。
- 2 市内の保育園の事例では、職員の発症がきっかけだった。子供から親にはあまり感染しないと思っていたが、結構確認された。

### 議題5 中部病院における治療指針について

○中部病院での治療薬の使用方針について説明

### 議題6 沖縄県の緊急事態宣言について

- 1 検査体制が整備されないと解除は難しい。
- 2 旧盆の影響を見てから判断すべき。最低でも来週一杯。
- 3 検査体制の問題がクリアされないと難しいのではないか。
- 4 検査体制の整備が重要(指定医療機関に回さないこと)。また、お盆を乗り切るためにお盆が終わるまでは延長すべき。
- 5 継続して頂きたい。
- 6 お盆を乗り切るため、少なくとも1週間は延長すべき。1週間毎にアセスメントすべき。
- 7 病床は逼迫しているので、解除してお盆を迎えるのは心配。1週間は必要。
- 8 2週間は必要。
- 9 2週間は必要。日常生活に感染が迫っているし、お盆もそうだが、いつどこで感染が拡大する懸念が拭えないので、延長すべき。
- 10 ここで活動を広げてしまうと、リスクに対応できてないまま感染が広がるのではないか。そこが気がかり。2週間くらいは必要ではないか。
- 11 厚生労働省から応援が来ている、県外から看護師を派遣してもらっているのに、緊急事態宣言を解除するのは、医療の観点からは早いのではないかと思う。